

**製品名: mAChR M2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13544**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000
分子量	51kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CHRM2
別名	CHRM2; Muscarinic acetylcholine receptor M2
遺伝子 ID	1129.0
SwissProt ID	P08172
免疫原	抗血清はヒト CHRM2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 185-234

**背景**

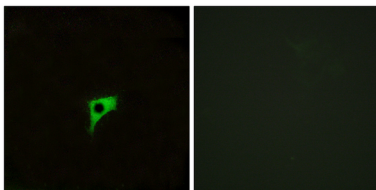
ムスカリン性コリン受容体は、G タンパク質共役受容体のより大きなファミリーに属します。これらの受容体の機能的多様性は、アセチルコリンが受容体に結合することで定義され、アデニル酸シクラーゼ阻害、ホスホイノシチド変性、カリウムチャネル介在と

いった細胞応答を含みます。ムスカリン性受容体は、中枢神経系および末梢神経系におけるアセチルコリンの多くの作用に影響を与えます。ムスカリン性コリン受容体2は、徐脈および心収縮力の低下に関与しています。この遺伝子には、複数の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患: CHRM2の遺伝子変異は、大うつ病性障害(MDD)の感受性に影響を与える可能性があります[MIM:608516]。MDDは最も一般的な精神疾患の一つです。MDDは、躁病、混合性、または軽躁病エピソードの履歴を伴わない、1つ以上の大うつ病エピソードを特徴とする複雑な形質です。大うつ病エピソードは、抑うつ気分の新たな発現または明らかな悪化、またはほぼすべての活動への興味や喜びの喪失が2週間以上続くことによって特徴付けられます。食欲、体重、睡眠、精神運動活動の変化、エネルギーの低下、無価値感または罪悪感、思考、集中、意思決定の困難、または死についての反復的な思考または自殺念慮、計画、または試みの4つの追加症状も存在する必要があります。エピソードには、社会的、職業的、またはその他の重要な機能領域における苦痛または障害が伴う必要があります。機能: ムスカリン性アセチルコリン受容体は、アデニル酸シクラーゼの阻害、ホスホイノシチドの分解、Gタンパク質の作用によるカリウムチャネルの調整など、さまざまな細胞応答を媒介します。主な伝達効果はアデニル酸シクラーゼ阻害です。多型: CHRM2の遺伝的変異はアルコール依存症の感受性に影響を与える可能性があります[MIM:103780]。類似性: Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属します。、

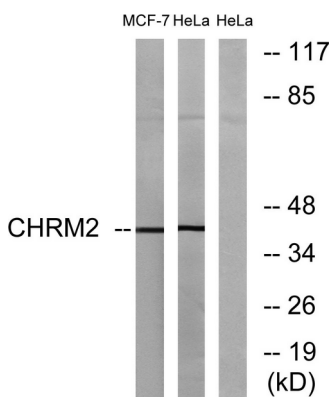
## 研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;アクチンと細胞骨格を調節します。

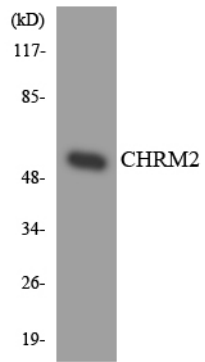
## 画像データ



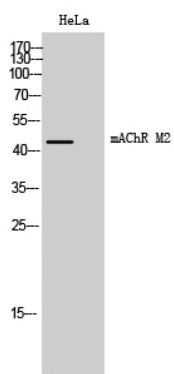
CHRM2抗体を用いたLOVO細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



CHRM2抗体を用いたHeLa細胞およびMCF-7細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



CHR2 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウェスタンブロット分析。



mAChR M2 ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析